

学会通信 (二〇〇八年四月～二〇〇八年一月)

一、学会活動

現代中国学会主催講演会

六月一八日「蔣経国晩年の台湾民主改革」薛化元氏(台湾・政治大)

学台湾史研究所教授)

七月二八日「南開大学における中国語教育改革」鄭天剛氏(南開大)

学漢語文化学院教授)

十一月一日「台湾史研究の現状」楊彦杰氏(中国・台縁博物館館長)

十一月四日「台湾で中国を学ぶということ―より広い視野から中国

研究を考える」佐藤将之氏(台湾大学哲学系助理教授)

二、学会員活動

河辺一郎「国連文書の統制と審議の透明性―国際関係の政治学研究における資料批判の試論として」(愛知大学国際問題研究所、Occasional Paper No.1、一月)、「日本に於ける核軍縮」

(「ニュー・インターナショナルリスト日本版」No.100、七月)、

「米国の戦争観と北朝鮮政策」(「進歩と改革」二〇〇八年八月

号、進歩と改革研究会)

高明潔「牧畜文明におけるソルコの位置づけ」(「改革・変革と中

国文化、社会、民族」日本評論社、五月)、「グローバル化の中

でのモンゴルをどう描くか―内蒙古牧畜業研究に基づいて」(「歴

史・文学・メディア・アーカイブスからみたグローバル秩序」

(「国際シンポジウム報告、於ウランバートル、六月)

黄英哲「楊基振日記の史料」(「日記与台湾史研究」所収、台湾・

中央研究院台湾史研究所、六月)、「越境するテクスト―東アジ

ア文化・文学の新しい試み」(共編著、研文出版、八月)、「台

湾女性史入門」(共編著、人文書院、一〇月)

砂山幸雄「思想解放」と改革開放」(日本現代中国学会第五八回

全国学術大会共通論題報告、於東京大学、一〇月)、「野村浩一

著「近代中国の政治文化」(書評、「中国研究月報」二〇〇八

年一〇月号)、「オリンピック直前の中国の政治、社会状況」

(講演、豊川経済同友会、七月)

土橋 喜「中国におけるインターネット検閲」(共著、「愛知大学

国際問題研究所紀要」第一三二号、九月)

馬場 毅「孫文を支援した山田兄弟」(講演、「津軽が生んだ山田

良政・紀三郎兄弟をめぐって―津軽、東亜同文書院、孫文」、

於弘前駅前市民ホール、七月)、「改革・変革と中国文化、社

会、民族」(共編著、日本評論社、五月)

松岡正子「ナムイ・チベット族の選択―集落の解体と山の神祭り

という民族表象」(塚田誠之編「民族表象のポリテクス」風

響社、三月)、「四川省俄亞ナシ族の兄弟共妻型婚姻」(「愛知大

学国際問題研究所紀要」第一三二号、九月)、「中国の年画―吉

祥と駆除の木版画」(講演、於愛知県吉良町連続講座)

中国21 Vol. 31 予告(09年3月刊行予定)

特集●「対日協力政権」「植民地」「同盟国」(仮題)

第二次世界大戦が終結してからすでに六〇年以上たち、その歴史研究はいま再評価が迫られている。「満洲国」や汪兆銘の「中華民国政府」に「偽」の文字をつけずに語ることはできないのか。次号特集では、これまで正面から取り上げられることの少なかった「対日協力政権」、「大日本帝国」の「同盟国」、さらに「一視同仁」の植民地台湾・朝鮮について、当事者に拘わるインタビューや証言をはじめ、斬新な論考によって新たな視角を示そうとするものである。